

■石川理紀之助 老農(多面的農業指導者)の典型。農村計画やイネの品種はじめ精緻かつ膨大な書を著し、全国遊説もした。

いしかわりきのすけ
阿部正弘首座1845=

出羽国秋田郡金足村小泉で、代々豪農の奈良周喜治の三男に生まれる。幼名奈良力之助。

ペリー来航・1853= 8歳：祖父の喜一郎と共に句会について行き「硯にも酒を飲ませる寒さかな」の句を詠む。
開国開港・1854= 9歳：
安政大地震・1855=10歳：偶然、菅江真澄の墓に詣で、碑文を写す。

桜田門外変・1860=15歳：蓮阿上人に和歌を学ぶ。

8月18日政変 1863=18歳：この頃、奈良家の当主に認められ若衆頭に任じられるが、学問への熱き想い絶ち難く、奈良本家を出る。川連村にて歌人後藤いつ女にあう。

薩摩藩士密航1865=20歳：父と昵懇の近村山田村石川長十郎の婿養子となり、石川理紀之助となるとともに、没落していた養家の家政整理につとめ始め、

薩長同盟・1866=21歳：この頃、「小作米取立法」五ヶ条を作り、地主と小作人との争いを終焉させると、
大政奉還・1867=22歳：山田村の有志を集めて農業耕作会を設立。農家経済のための検田法を研究し「八握徳」を刊行。

明治維新・1868=23歳：

戊辰戦争終・1869=24歳：戊辰戦争では農兵として徴兵され、野戦教導となる。戦争終結後帰村し、肝煎後見役(名主)になる。

初の日刊新聞1870=25歳：5年後には家産を回復、約15町歩の地主となる。第一大区第四小区仮副長となる。

学問のすすめ1872=27歳：廃藩置県によって郡県制度が実施され、秋田県庁第二課勸業部牧畜係に奉職すると、

明治6年政変 1873=28歳：

作物適地試験を担当するかたわら、

三つの反乱・1876=31歳：*稲乾燥の斜掛稲架法・省力耕作の干田馬耕法を提唱し、稲種改良の実践の手引書「稲種得失辨」を著す。地租改正に際し地租改正委員となり、秋田県の総代として力量が評価される。

西南戦争・1877=32歳：内国勸業博覧会用務で上京。途中各県の農業視察。勸業義会第一分会を作り、

大久保暗殺・1878=33歳：腐米改良事業に着手、種苗交換会を始めるなど、農事関係者・有志農民を集めて勸業義会を組織し、種苗交換・農事研究推進の機関として永続せしめ、

琉球処分・1879=34歳：秋田県内四老農に農業改善の方法を請う。後、この四老農について「秋田県善行録」を著す。

・1880=35歳：第一回の県会議員の選挙で知らぬ間に議員になったが病気を理由に辞退。

明治14年政変1881=36歳：大日本農会が設立されるに及び、特別会員として選任され、以後、その後援で全国を遊説。

岩倉具視没・1883=38歳：三十数回にわたる辞職願が叶えられて秋田県庁を辞し、窮乏の極にあった山田村救済のため帰村し、農家経営の実践に専念。同村の戸別調査を行い、

内閣発足・1885=40歳：山田村経済会を結成して更生計画を実践し、

帝国大学始・1886=41歳：種子交換・品種改良や育種・畜畜など情報交換と実験の私設品評会を開催して好評。

国民之友始・1887=42歳：家出した長男探しの旅に出るが、千島国後島の鉾山で無惨な遺骨と対面。次男老之助に家督を譲る。

初の対等条約1888=43歳：農商務大臣井上馨からの要請で上京し実績体験を講演。「教訓十四ヶ條」を発表。

帝国憲法発布1889=44歳：山田村救済事業第一期が完了すると、貧農の生活を理解すべく完全自給自足の農家経営の実践のため、命がけで草木谷山居に“废物利用庵”を作り立てこもる。

帝国議会始・1890=45歳：

足尾鉾毒始・1891=46歳：特別地価修正問題で上京し、数百種の資料によって反対意見書を作成。

大本教・1892=47歳：山居生活の経験をまとめ「山居生活」を著す。前田正名が指導推進していた町村是調査に共鳴し、

日清戦争始・1894=49歳：前田を介して大日本農会から委嘱受けて、農事奨励のため九州各県を巡回講演しながら、

各地の事例を集めるとともに、年来実践してきた自己の体験を基礎に、

日清戦争終・1895=50歳：全国農事会創立に尽力し、秋田県農会を設立後、

白馬会・1896=51歳：町村経済の基礎を固め自治制の確立を目的とする農村計画書に着手し、

Bushidou・1899=54歳：

田中正造直訴1901=56歳：*著名な「適産調将来心得」としてまとめた。同年の「稲種得失弁」は、103種のイネについて、その来歴・適地・性状・施肥などを記し、科学的な品種改良への準備を成すものである。

教科書疑獄・1902=57歳：前田正名の懇請で、前田の経営する宮崎県の開田事業を救済すべく九州に赴き、谷頭村の救済に当り、

日比谷公園・1903=58歳：あとつぎの次男老之助が病死。

日露戦争終・1905=60歳：

韓国反日暴動1907=63歳：

韓国併合・1910=66歳：山田村の産土社八幡神社に理紀之助の木像が合祀される。

明治天皇没・1912=68歳：九升田部落の救済を県知事と仙北郡長に懇願され、老体を鞭打って救済方法の策定と実践に参画、

第一次大戦始1914=70歳：妻が病死。

21ヶ条要求・1915=71歳：*九升田を見事に再生させて復興事業完了。重体のなか、知事宛の四ヶ条の奉書を認め、没した。翌年、孫が九升田復興の記録「老農晩耕録」を刊行。